

矢ヶ崎賢次 やがさき けんじ 評論家、歌人。明治二十八年九月十五日長野縣生れ
 (一八七二)。號天心、天心居士、小柴垣、柴垣等。雜誌『高原春秋』
 主宰、可長野新聞』主宰、長野市公民館館長など。俳人矢ヶ崎宗可峰の
 弟。

編者書、釋 大石口述 『閑雲止水 (詩稿二十年譚)』 (矢ヶ崎天心名、
本園敬道筆記)

編、昭和十六年十一月十五日長野・雲龍窟釋入道老師還曆報恩會、靜

岡・禪道會)、可長野松けり人々―長野縣水利耕地開發功勳録』(編、

昭和二十年一月七日長野・長野縣知事官房行政審議室、信濃歲時

記』(昭和二十九年一月十五日長野・信濃教育會出版部)、可天心文

集』(昭和二十五年二月五日長野・第一法規出版株式會社)等。